

公務災害防止事業の推進

安全管理セミナーを実施して

北海道函館市消防団

1 はじめに

私たちが住む函館市は、北海道の南西部、渡島総合振興局管内の南端に位置し、寒冷地である北海道としては比較的温暖な気候と豊かな自然に恵まれ、津軽海峡を挟んだ向こう側に本州北端の青森県を見ることができます。

函館山から一望できる函館港は、開拓当時、その形から「巴港」と言われ、この良港に恵まれた街は北海道の表玄関として、北海道がまだ「蝦夷地」と呼ばれていた頃から各地との貿易が盛んに行われておりました。

名前の由来は、享徳3年（1454年）津軽一族の河野政通が「ウスケシ」（アイヌ語で湾の端という意味）と呼ばれていた漁村に館を築き、それが箱に似ていたことから「箱館」になり、明治2年（1869年）蝦夷が「北海道」に名前を変えた折りに「函館」と改め、大正11年（1922年）に市政施行し「函館市」となりました。

北海道内では歴史のある街としてよく知られておりますが、この函館は四季折々の情景にも趣があります。

まず春には、「箱館戦争」の舞台にもなった

特別史跡「五稜郭」に植樹されている、約1,600本の桜の木が鮮やかな淡紅色に染まり、函館に春の訪れを告げてくれます。夏には、横浜や長崎とともにいち早く海外に門戸を開いたことにちなんだ開港セレモニーや夏空を華やかに飾る花火大会、函館港まつりが盛大に行われ、約3万人の市民が街を練り歩くパレード「ワッショイはこだて」、様々な山車や港踊りなどのほか、函館名物イカ踊りも人気を呼び街全体が熱く燃え上がります。

また秋には、木々が赤く染まり、山々にはまるで紅色の絨毯を敷き詰めたような景色が広がって異国情緒豊かな街並みが一層ロマンチックになり、心地よい秋風が疲れた体を癒してくれます。冬には、観光名所のひとつである赤レンガ倉庫群前の海上に飾った巨大クリスマスツリーが人気を呼ぶ「函館クリスマスファンタジー」、二十間坂や基坂の樹木をイルミネーションで彩る「はこだて冬フェスティバル」など、寒い季節でも人々の心を温もりでいっぱいにしてくれます。

そして、何より有名なのが世界3大夜景に数

えられる函館山山頂から望む夜景で、初夏から晩秋にかけての時季には、イカ漁の「いさり火」が夜景に彩りを添えるなど、四季それぞれによって味わいの違った夜景を楽しむことができます。

また、平成16年12月1日には函館市と戸井町、恵山町、楳法華村、南茅部町が北海道で最初となる平成の大合併により、面積667.94平方キロメートル、人口280,035人となり、平成17年10月には道南唯一の中核市に指定されました。

2 函館市消防団の沿革

平成16年12月1日の市町村合併により新しい函館市となりましたが、消防団につきましては、函館市函館消防団、函館市戸井消防団、函館市恵山消防団、函館市楳法華消防団、函館市南茅部消防団、それぞれの地域性を活かし5消防団による連合消防団、45分団、消防団員1,290名で組織し、地域に密着した防災機関として活動し

ています。

表彰関係につきましては、消防庁長官から竿頭授が平成20年3月に南茅部消防団、平成21年3月に函館消防団、楳法華消防団、平成22年3月に恵山消防団、また、表彰旗が平成22年3月に戸井消防団へそれぞれ授与されております。

3 安全管理セミナーを実施した経過

消防団員の公務災害防止につきましては、各消防団とも各分団での各種会議や訓練において事故防止を呼びかけておりましたが、平成23年に入り火災現場で2件の受傷事故が連続して発生しております。受傷程度はともに軽傷でしたが、ハインリッヒの法則（※）に当てはめて考えたとき、一つの事故の背景には多数の「ヒヤリ」「ハット」する事例がいままでもあったと推察されます。

「今までも平気だったので…」という不安全行為が、いつヒヤリ・ハットを飛び越え一気に



講師



熱心に聞き入る消防団員

重大災害になるかも知れません。

この法則から学ぶべきなのは、人命にかかわる重大事故を防ぐには、常日ごろの小さな取り組みが不可欠ということです。

消防団員は平素、地域の安全安心を守る防災リーダーとして活躍しておりますが、今回は、消防団員が自分たちの安全に対する意識向上を図ることと、事故防止について学ぶため、消防団員等公務災害補償等共済基金から安全管理に

関する専門の講師を招いて安全管理セミナーを開催いたしました。

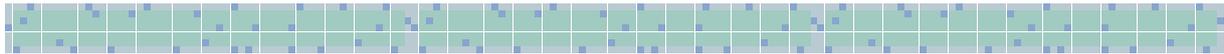
※1件の重大事故の背景に、29件の軽傷の事故と300件の「ヒヤリ」「ハッと」する体験があるという労災事故に関する法則。1930年代に米国のハインリッヒ氏が発表した。

4 安全管理セミナーを実施して

消防団員等公務災害補償等共済基金から講師としてS-KYT指導員河村信利氏をお迎えし、平



講演中



講演中 2

成23年6月26日（日）に安全管理セミナーを実施し、今回は5消防団のうち函館市函館消防団の幹部86名が受講をいたしました。

「安全とは何か」を考えると、災害現場での活動や訓練等に眼向けがちですが、今回の安全管理セミナーを受講し、普段の生活や活動の中に潜在的な危険要素が多数あると知らされました。

研修の内容は、最近の主な公務災害事例や公務災害防止の理念、事故の予防策（5つの防護壁）、事故発生後の対応策等の講義とS-KYT（消防団危険予知訓練）のDVD上映を交えたもので、説明は大変分かりやすく、講習の時間が短く感じる程でした。また、消防団活動をするうえで、健康管理が如何に重要で安全管理に不可欠であるかということを再認識させられました。

受講後のアンケートにも「安全管理、健康管

理の重要性を改めて考えさせられた」との意見が多く、安全管理セミナーが今後の消防団活動に活かされ、安全管理にしっかり取り組んでくれるものと期待しております。

5 今後の取り組みについて

今回は、安全管理セミナーを実施しましたが、今後も、定期的に消防団員等公務災害補償等共済基金が推奨する各種セミナー、S-KYT（消防団危険予知訓練）研修等を活用し、危険を予知する能力を高めたいと考えており、全消防団員が受講出来るように取り組むべきと思っております。

安全管理セミナーで学んだ知識を活かし函館市消防団では、これからも函館市民のため安全安心な町づくりと、公務災害ゼロを目指し防災活動に取り組んでまいります。